今月の情勢　～経済･金融の動向～

原油市況

原油価格（ＷＴＩ期近物）は、大型ハリケーン上陸の影響から 8 月 30 日に終値で 69.81 ドルと史上最高値を記録。その後はＩＥＡ(国際エネルギー機関)による先進国の石油備蓄を放出する対策が講じられたことやＯＰＥＣの生産増加などを受け下落傾向で推移。10 月下旬には 60 ドル台まで低下した。ただし、製油所へのハリケーン被害の影響から、ガソリンや灯油など石油製品の供給力が不足しており、原油に比べ、ガソリンが高止まりする傾向が続いている。

米国経済

米国では、景気拡大が続いているものの、ハリケーンによる雇用や消費等への一時的な影響が表面化している。10 月のエコノミスト予想によれば、今後も 3%台前半の経済成長が続くと見込まれているが、ハリケーンの影響から 7～9 月期、 10～12 月期の成長率はやや押し下げられる見通し。それでも雇用環境は改善傾向（8 月はハリケーンの影響から一時的に減少したものの、05 年に入ってからの非農業部門雇用者数は月平均 177 千人の増加）が続いている。一方、米政策金利は 9 月 20 日に 0.25%引き上げられ 3.75%となり、インフレ懸念の高まりから利上げ継続が示唆されている。

国内経済

わが国では、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、緩やかに景気が回復している。足下 8 月の生産は、電子部品・デバイス等ハイテク関連業種での在庫調整が終了し、最加速する見通し。また、設備投資は企業収益の改善を受け増加しており、先行指標となる 8 月の機械受注は 2 ヶ月ぶりに増加し、引き続き 7～9 月期も増加する見通し。さらに雇用・所得環境の改善などから消費者マインドも改善・向上している。

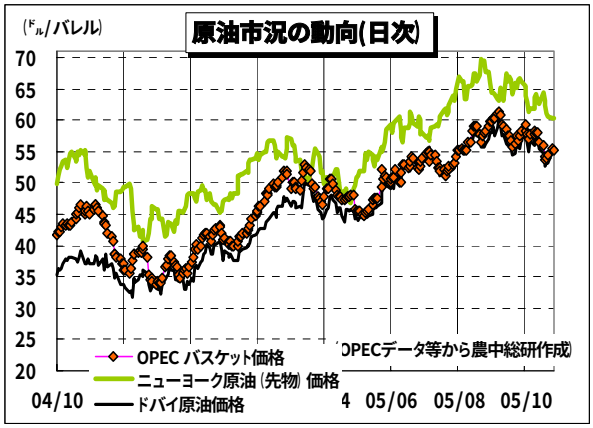
為替･金利･株価

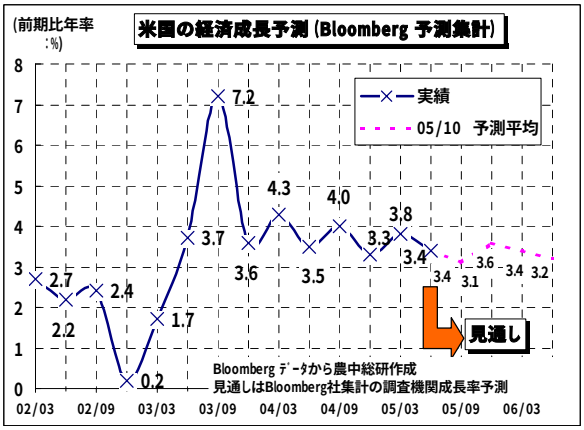
外国為替市場では、米国の金利先高感が強まっていることから対米ドル円相場がこのところ 115 円台で推移している。日本の長期金利の目安である新発 10 年国債利回りは 1.5%台に上昇して推移。わが国の消費者物価は小幅下落をたどっているが、原油高に加え特殊要因の剥落から先行き上昇する見通し。日経平均株価は、国内景気回復や構造改革続行への期待感から続伸し、10 月 4 日には 4 年 5 ヶ月ぶりに 1 万 3,700 円台まで上昇。その後は米国の株価下落等を受けて 13,100 円台まで下落して推移している。

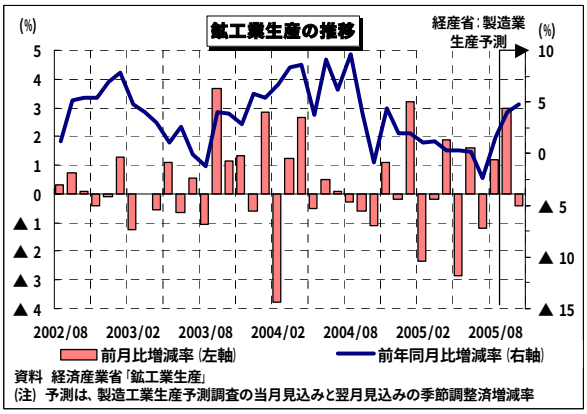
政府･日銀の景況判断

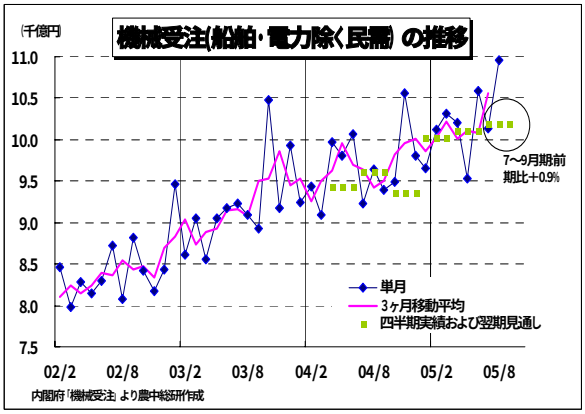
政府は 10 月の「月例経済報告」で景気判断を「緩やかに回復」と据え置いたが、個別項目では企業の業況判断などを上方修正した。一方、日銀は 10 月の景況判断を「回復を続けている」と据え置き。政府・日銀ともに「景気の踊り場脱却を裏付ける動き」との見解。

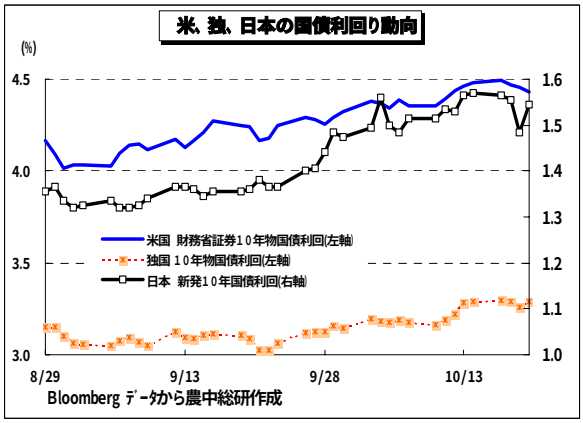
内外の経済金融データ

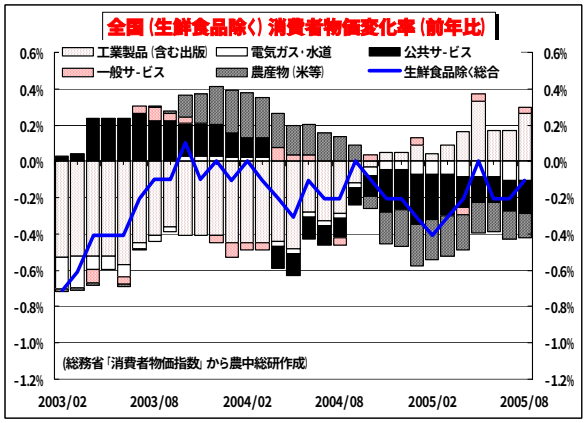












（詳しくは、ホームページ-トピックス-〔今月の経済・金融情勢〕http://www.nochuri.co.jp へ）